

SPA300/SPA500シリーズIP Phoneでのセッション開始プロトコル(SIP)パラメータの設定

目的

セッション開始プロトコル(SIP)は、IPベースのネットワークでセッションを作成、管理、および終了するために使用されるシグナリングプロトコルです。SIPは、コール管理のメカニズムです。また、ユーザロケーションの確立、機能ネゴシエーションの提供を行い、セッションの参加者全員がサポートする機能について合意し、進行中のセッションの機能に変更を加えることができます。

このドキュメントの目的は、SPA300およびSPA500シリーズIPフォンでのSIPパラメータの設定を示すことです。

該当するデバイス

- ・ SPA300シリーズIP電話
- ・ SPA500シリーズIP電話

Linksysキーの設定

注：実際のSPA300またはSPA500シリーズのIP PhoneセットシグナリングプロトコルでSIPとは、ナビゲーションキーを使用して[Device Administration] > [Call Control Settings] > [Signaling Protocol SIP]に移動します。

ステップ1: Web設定ユーティリティにログインし、[Admin Login] > [Advanced] > [Voice] > [SIP]を選択します。[SIP]ページが開きます。

SIP Parameters			
Max Forward:	70	Max Redirection:	5
Max Auth:	2	SIP User Agent Name:	\$VERSION
SIP Server Name:	\$VERSION	SIP Reg User Agent Name:	User
SIP Accept Language:	English	DTMF Relay MIME Type:	application/dtmf-relay
Hook Flash MIME Type:	application/hook-flash	Remove Last Reg:	no ▾
Use Compact Header:	no ▾	Escape Display Name:	no ▾
SIP-B Enable:	no ▾	Talk Package:	no ▾
Hold Package:	no ▾	Conference Package:	no ▾
Notify Conference:	no ▾	RFC 2543 Call Hold:	yes ▾
Random REG CID On Reboot:	no ▾	Mark All AVT Packets:	yes ▾
SIP TCP Port Min:	5060	SIP TCP Port Max:	5080
CTI Enable:	no ▾	Caller ID Header:	PAID-RPID-FROM ▾
SRTP Method:	x-sipura ▾	Hold Target Before REFER:	no ▾
Dialog SDP Enable:	no ▾	Keep Referee When REFER Failed:	no ▾
Display Diversion Info:	no ▾		
SIP Timer Values (sec)			
SIP T1:	.5	SIP T2:	4
SIP T4:	5	SIP Timer B:	16
SIP Timer F:	16	SIP Timer H:	16
SIP Timer D:	16	SIP Timer J:	16
INVITE Expires:	240	ReINVITE Expires:	30

ステップ2:[Max Forward]フィールドに、次のダウンストリームサーバに要求を転送できるプロキシまたはゲートウェイの数を入力します。これは、要求メッセージの転送が許可される残りの回数を示す値です。範囲は0 ~ 255です。初期値は70です。

ステップ3:[Max Redirection]フィールドに、無限ループを回避するために招待をリダイレクトできる回数を入力します。既定値は5です。

ステップ4:[Max Auth]フィールドに、要求がチャレンジされる最大回数を入力します。範囲は0 ~ 255です。デフォルトは2です。

ステップ5 : アウトバウンド要求で使用されるUser-Agentヘッダーを[SIP User Agent Name]フィールドに入力します。デフォルトは\$VERSIONです。空の場合、ヘッダーは含まれません。

ステップ6:[SIP Server Name]フィールドに、インバウンド応答への応答に使用するサーバヘッダーを入力します。デフォルトは\$VERSIONです。

ステップ7 : 登録要求で使用するユーザエージェント名を[SIP Reg User Agent Name]フィールドに入力します。指定しない場合は、登録要求にSIPユーザエージェント名が使用されます。

ステップ8 : 応答でメッセージ本文として伝送される理由フレーズ、セッションの説明またはステータス応答のSIP Accept Languageフィールドに希望する言語の名前を入力します。空白の場合、ヘッダーは含まれず、サーバーはすべての言語がクライアントに受け入れられるとみなされます。デフォルトは空白です。

ステップ9:[DTMFリレーMIMEタイプ(DTMF Relay MIME Type)]フィールドにDTMFリレーMIMEを入力します。MIMEタイプは、SIP INFOメッセージでDTMFイベントを通知するために使用されます。このパラメータは、サービスプロバイダーと一致している必要があります。デフォルトはapplication/dtmf-relayです。

ステップ10:[フックフラッシュMIMEタイプ(Hook Flash MIME Type)]フィールドにフックフラッシュMIMEを入力します。フックフラッシュイベントを通知するためにSIPINFOメッセージで使用されるMIMEタイプ。

ステップ11:[Remove Last Reg]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、値が異なる場合、新しい登録を登録する前に最後に使用した登録が削除されます。デフォルトは no です。

ステップ12:[Use Compact Header]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、Cisco IP Phoneは発信SIPメッセージでコンパクトなSIPヘッダーを使用します。[no]を選択すると、Cisco SPA IP Phoneは通常のSIPヘッダーを使用します。デフォルトは no です。

ステップ13:[エスケープディスプレイ名(Escape Display Name)]ドロップダウンリストから[はい(Yes)]または[いいえ(No)]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、発信SIPメッセージ用に、設定済みの表示名(DN)文字列が二重引用符で囲まれます。

ステップ14:[SIP-B Enable]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、SIP for Business (システムコールフローをサポート) コール機能が有効になります。

ステップ15:[トークパッケージ(Talk Package)]ドロップダウンリストから[はい(Yes)]または[いいえ(No)]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、BroadSoft Talk Packageのサポートが有効になり、ユーザは外部アプリケーションのボタンをクリックしてコールに応答したり、コールを再開したりできます。デフォルトは no です。

ステップ16:[Hold Package]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、BroadSoft保留パッケージのサポートが有効になり、ユーザは外部アプリケーションのボタンをクリックしてコールを保留にできます。デフォルトは no です。

ステップ17:[Conference Package]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、BroadSoft Conference Packageのサポートが有効になり、ユーザは外部アプリケーションのボタンをクリックして会議コールを開始できます。デフォルトは no です。

ステップ18:[会議の通知(Notify Conference)]ドロップダウンリストから[はい(Yes)]または[いいえ(No)]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、Cisco SPA IP Phoneは、会議コールの開始時に (BroadSoft Conference Packageを使用して) イベント会議付きのNOTIFYを送信します。デフォルトは no です。

ステップ19:[RFC 2543 Call Hold]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、コールを保留するためにSIP re-INVITEをピアに送信するときに、Cisco SPA IP PhoneにSession Description Protocol(SDP)構文c=0.0.0.0が含まれます。デフォルトは[Yes]です。

ステップ20:[Random REG CID On Reboot]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、次のソフトウェアリブート後に、Cisco SPA IP Phoneは別のランダムなコールIDを登録に使用します。デフォルトは no です。

ステップ21:[Mark ALL AVT Packets]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、すべてのオーディオビデオトランスポート(AVT)トーンパケット (冗長用にエンコード) にマーカビットが設定されます。デフォルトは[Yes]です。

ステップ22:[SIP TCP Port Min]フィールドに、SIPセッションに使用できる最小TCPポート番号を入力します。デフォルト値は 5060 です。

ステップ23:[SIP TCP Port Max]フィールドに、SIPセッションに使用できる最大TCPポート番号を入力します。デフォルト値は 5080 です。

ステップ24:[*Keep Reference When REFER Failed*]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、電話機は即座にNOTIFY sipfragメッセージを処理します。

ステップ25:[*CTI Enable*]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、コンピュータのテレフォニー統合(CTI)が有効になります。CTIインターフェイスを使用すると、サードパーティのアプリケーションがCisco IP Phoneの状態を制御および監視し、PC上のマウスをクリックしてコールに応答できます。デフォルトは no です。

注：IP Phoneの回線の状態を適切に監視するには、接続されたCisco Attendant ConsoleのCisco SPA300シリーズまたはCisco SPA500シリーズIP PhoneでCTIを有効にする必要があります。

ステップ26:[発信者IDヘッダー(Caller ID Header)]ドロップダウンリストから 特定の発信者IDヘッダーを選択します。デフォルトはPAID-RPID-FROMです。

ステップ27:[SRTPメソッド(SRTP Method)]ドロップダウンリストから、 特定のSRTPメソッドを選択します。SRTPは、セキュアなリアルタイム転送プロトコルに使用する方法です。デフォルトはx-sipuraです。

ステップ28:[Hold Target Before REFER]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、完全在席のコール転送を開始する際（転送先が応答した場合）に、転送先にREFERを送信する前に、転送先とコールレグを保持するかどうかを制御します。デフォルトは no です。

ステップ29:[*Dialog SDP Enable*]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい]を選択すると、通知メッセージxmlが簡略化されます。

ステップ30:[Display Diversion Info]ドロップダウンリストから[Yes]または[No]を選択します。[はい(Yes)]を選択すると、Diversionヘッダー情報（存在する場合）がINVITEメッセージに表示されます。

ステップ31:[Submit All Changes]をクリックして、設定を保存します。